

会議結果のお知らせ

開催した会議の名称

別府市図書館・美術館整備構想策定等支援業務委託検討委員会 第3回会議

開催日時

平成30年10月29日(月) 14:00~15:30

開催場所

別府市役所4階 4F-2会議室

出席者

委員 塚田俊三、中野伸哉、中山昭則、平石栄二、阿南寿和、原田勲明、稲尾隆
事務局 高橋修司社会教育課長ほか2名、受託事業者 OpenA3 名

次第及び議題

- 次第(PDF)
(1) 整備内容について(PDF ・PDF)
(2) 立地条件の検討について(PDF)

主な審議内容及び会議録の概要

次第に基づき、議題について事務局から説明し、委員から意見を徴した。

【事務局説明】

- 平成28年度に策定した基本構想のコンセプトをふまえ、今年度はそれを具現化するランドデザインとなる整備内容の概略を本委員会で決定することとなっている。
- 図書館・美術館の一体的整備について、現在の美術館を活用しつつ、新たに必要と思われる機能を新施設に付加したい。
- 建設候補地について、本委員会で定める立地条件等の客観的な評価項目を比較検討のうえ、市で決定したい。
- 利用者の意見は基本構想で一定程度整理されている。オープンプラットフォーム会議(以下「OP会議」という)は、公共空間の活用や運営に主体的に関わるプレイヤーの視点で開催したい。

【委員の主な発言要旨】

1 整備内容について

- OP 会議は、来年度以降、テーマを少しずつ変えながら多様な層を選定し複数回行ったほうがいいのではないかと。
- OP 会議がアイデア出しと言う趣旨であれば、今年度にさらに複数回実施してアイデアを抽出・集約する必要があるのではないかと。
- 整備構想のグランドデザインを検討する本委員会と OP 会議の関係性をどう整理していくのか。
- 建設後に運営者を探す従来の公共施設ではなく、空間の活用や運営に主体的にコミットする事業者等の可能性を早い段階から検討する逆のプロセスが重要である。
- 運営主体の設計になると、どれくらい反映されるのか。運営者により設計がまったく変わるのか。
- 本委員会は大きな方向性とビジョンを議論する場である。設計から先の方法論は企画・運営者、設計者、施工者がそれぞれ詰めていく。すべて運営主体ということではない。あくまで検討のパラメーターを多く抽出し、複合的に設計していくということである。
- 従来の図書館・美術館のスペースは確保しつつ、市民が自由に活動できる場があるというのが、そもそもオープンプラットフォーム構想である。そういう説明がわかりやすい。
- OP 会議は単なるアイデア出しの場ではなく、人材発掘の場だと理解した。まずは、市民から見て、新しい図書館・美術館は、これまでとは違うものであるということをイメージしてもらえればよい。
- 現状の美術館は、博物館のような使い方がされていて、互いの良さが消されている。来館者も混乱する。国内を見渡してもテーマを絞った施設は海外からも注目され、街の文化レベルを一気に押し上げる。「別府だから温泉」ではなく、多様なブランディングを考えるべきである。
- 新しい美術館や博物館の機能を付加する際には、今の美術館の再定義も必要である。次回の委員会までにグランドデザインを議論できるものがあるといい。

2 立地条件の検討について

- 立地条件の評価項目と配点割合は本委員会で審議決定する。市は、その評価基準に基づく複数候補地の比較検討結果を、本委員会に報告してもらいたい。
- 騒音・振動など周辺住民への配慮や騒音など、市民へのデメリットがないかどうか重要な検討事項である。デメリットはなるべく排除しておくほうがよい。
- 既存の美術館を活用するのであれば、それとの連携も重要である。
- オープンプラットフォーム構想を実現できる場所かどうか最重要である。事務局案（叩き台）は利用者目線なのか、環境目線なのか分かりづらい。

交通アクセスや市民のメリット・デメリット、観光客誘導の項目を上位に整理したほうがよい。

- 単語だけではなく、説明文を記載した方がいい。
- 観光客と市民では交通のアクセスが異なるのではないか。

以上